

大島大橋の送水管が破断しほぼ全域で断水に

1月11日、柳井地域広域水道企業団から周防大島町に浄水を供給するため大島大橋に添架している送水管（直径約45センチメートル）が大島側から80メートル付近の接続部分で破断し、水が漏れていることが確認されました。これにより配水池への送水ができなくなったことから、広域水道企業団が送水を中断し送水管の復旧作業を実施。1月13日午後8時頃には復旧作業が完了し送水が再開され、配水池への貯水と管の洗浄などを行いながら、段階的に各家庭への給水を行い、1月21日にはすべての地区で断水が解消されました。

送水管は設置から21年

大島大橋に添架された送水管は平成8年に設置され、広島県境の弥栄ダムから日積浄水場を経て大島郡に浄水の供

度があったものの、今回のような大規模な断水は初めてのことで、耐用年数50年とされた送水管でしたが、突然の破断により不自由な生活を強いられることになりました。

県内各地から給水支援が

町内のほぼ全域が断水することから、1月12日午前7時から県内各市町の水道事業者の支援を受け、町内4カ所に臨時給水所を開設。後に計12カ所に拡充し、5日間にわたり、午前7時から午後8時（1月16日は午後3時）まで給水作業が行われました。

地域内で助け合いも

臨時給水所では各所で大勢の人が列を作り順番を待ちましたが、中には、近所の高齢者宅の分も運ばれる姿も見受けられました。

町でも一人暮らしの高齢者の方などへ向けて、民生委員さんの協力を得るなどして飲料水を届けました。

時間差で断水に

断水は早い地域では1月12日から始まりましたが、遅い地域は1月15日頃までは水が出ている地域もありました。これは、町内9カ所の配水池から自然流下や更に高地にある配水池を経由して給水する構造になっているためで、貯水量や使用量、標高差によって地域ごとに違いが生じ、復旧時も低地から回復していききました。

突然の断水を受けて

現在、送水管の破断箇所を製造元が持ち帰り原因を調査していますので、結果が明らかになり次第お知らせしていきます。

このたびの断水により、臨時給水所で給水を受けようと多くの人がポリタンクなどの容器を買い求め、町内や近隣



▲県内市町からの救援で開設された臨時給水所

の販売店では品薄状態になりました。また、送水が再開しても配水池が一度空になっており、管の洗浄などに時間を要し、すぐに平常通りとはいきませんでした。

しかし、誰も経験したことのない大規模な断水で、不慣れた状態の中にもかかわらず、住民の皆さんの冷静な対応やご近所同士の助け合い、県内市町からの支援、その他大勢の方のご理解とご協力によって、大きな混乱もなく復旧へと向かうことができました。

日頃何気なく使っている「水」の大切さを改めて痛感するとともに、再発防止への取組は急務であり、同時に、一部の地域では配水池へポンプで圧送していることから、長期の停電でも同様に断水するため、「断水」への備えについても考えさせられました。

お詫びとお礼

今回の大島大橋送水管事故による断水では、町内のほぼ全域が断水し、町民の皆様大変なご不自由、ご迷惑をおかけし、心からお詫び申し上げます。

また、町民の皆様のご協力と町内外からのご支援により、復旧作業が終了したことににつきまして感謝申し上げます。

断水の原因は、柳井地域広域水道企業団が大島大橋に添架している送水管が破断したことによるもので、周防大島町にとって過去に例を見ない経験でありました。断水により、町民の皆様の日常生活への影響はもとより、あらゆる事業所において必要な水が使用できなくなり、大変なご迷惑をおかけいたしました。

現在、水道企業団と製造元が原因を調査中ですが、原因究明後は再発防止に取り組んでまいります。

今回の断水に際しまして、多数の皆様からのご支援に心からお礼申し上げますとともに、あらためまして町民の皆様にお詫びを申し上げます。

周防大島町長 椎木 巧

▶漏水する送水管の破断箇所（柳井地域広域水道企業団提供）

